



はちろうがた

2007年7月 92号

議会だより

発行：八郎潟町議会 編集：議会広報編集委員会 〒018-1692 秋田県南秋田郡八郎潟町字大道80
TEL 018-875-5810

八郎潟町議会主催 講演会

『分権時代に対応する町村議会の活性化について』

秋田県町村議会議長会

事務局長 関

正氏



『八郎湖水質浄化対策について』

秋田県生活環境文化部環境あきた創造課

八郎湖環境対策室長

菅原

徳蔵氏



- ◆ 2～3ページ …………… 一般質問
- ◆ 4～5ページ …… 広域行政の議会報告
- ◆ 5ページ …………… 委員会報告
- ◆ 6ページ …… 議員研修/請願・陳情

一般質問



伊藤 秋雄 議員

頑張る地方応援プログラムについて

問 総務省がやる気のあ
る市町村の特色を生かし
独自のプログラムを募集
自由に簡素で効率的な行
政に取り組む自治体に地
方交付税の上乗せ配分な
どが支給され、単年度で
3千万円、三年間で9千
万円まで財政支援される。
また活性化計画は無審査
である。この政策は住民
の参画などにより、地域
の知恵と工夫を凝らすこ
とが期待される事業だと
思う。本町はこのプログ
ラムに取り組んでいるの
か。わが町にもっとも必

要なテーマを考え、専門
のコンサルタントと相談
しながら、町が元気にな
る、魅力のある町づく
りを考える必要があると思
う。

そこで本町には、県の
無形文化財に指定されて
いる願人踊りや一日市盆
踊り、浦城跡、三倉鼻や
八郎潟町を訪ねた歌人や
文人の石碑等たくさんあ
ります。こうした町の文
化と歴史のプログラム。
もう一つは八郎湖岸を活
かした地域振興策（マガ
モ、佃煮）、町独自のプ

ランド化を主体とした商
業と産業のプログラムを
作成。それに、観光客を
呼ぶための拠点としてわ
が町の歴史や文化を紹介
する会館が必要になると
思う。また町の将来を考
える人達の意見を取り入
れながら町民が一体とな
ったプログラムを策定す
るべきだと思うが。

答 町では少子化対策子
育て支援として次の三つ
の柱を掲げ平成十九年
二十二年まで少子化対策
プロジェクトとして重点
的に進める。

- 一、子育て環境作り支援
事業
 - 二、地域子育て支援セン
ター運営事業
 - 三、乳幼児医療費支援事
業、乳幼児養育費支援
事業、保育園・幼稚園
保育料の減免事業
- 町では前年度の出生率の
10%増を目指して進めて
いく。プログラム作成の
ためのコンサルタントに
ついては考えていない。
庁舎内で進めていく。



5月5日の願人踊りに多数の観客が来町（一日市商店街）



金 一義 議員

公会計制度(自治体会計改革)の見直しについて

問 最近における自治体の財政は、夕張市の例を見るまでもなく地方自治体の財政状態は悪化の一途である。財政の硬直化により事業の選別を迫られている現状であります。そのためにも抜本的な公会計改革が不可欠であります。財政の健全化をすすめるためにもバランスシート

のためにもバランスシートの作成が必要である。

の作成が望まれます。現在の会計制度は単年度の歳入歳出の帳尻合わせで資産や負債コストをつかめない。総務省は二〇〇〇年にバランスシートの作成基準を公表済で全都道府県と半数の市区町村が作成済みです。将来の負担を明確にする

答 総務省もバランスシートの作成基準を公表している。三万人未満の市町村は、平成二十三年までに実施する事となっているので、早急に取り組むため準備をいたします。



昨年、上水道取水口へオイルフェンスを設置している様子

上水道の抜本的な改革について

問 今年もアオコの発生が、はたしてこのようないずれかの方法が町にとっての有効な予算の使い方か、

私は毎年このような施策を行うことは大変なムダ遣いである。このような場当たり的な対応策では何の解決策にもならない。このようない千四百〇万円の投資が本町にとっての有効な予算の使い方か、

義務化による住宅火災警報器に補助金を

問 毎日の新聞、テレビ等で目にしますが最近の住宅火災が発生するたびに尊い人命が失われています。我が町も災害史に残る一日市大火があったことは今も語りつがれています。幸に平成十五年三月の火災発生以後現在も無火災を続けています。平成十八年六月から消防法改正で新築住宅には火災警報器の設置が義務付けられ、また既存住宅についても二十三年五

月三十一日まで設置義務がスタートしました。我が町でも既存住宅の設置が急がれますが、そこで町民が火災警報器の設置をしやすくするために補助金制度を限定つきで設けてはどうか提案します。また財源については、今町で取りくんでいる資源ゴミ還元事業の資金でまかなうことを進めます。

方であるか、上水道の抜本的な対策をとるべきと考えます。ことは水道水の問題であります。町民には安心安全な水を提供する責任と町が発展する為にも水の問題を早急に解決する必要があります。

答 良く調査し前向きに検討する。

答 これまで通り、恒久的な対策事業に取り組む考えとして、高度浄水処理施設、取水口の上流への移動、広域水道への参画、素波里ダム用水の引水等関係町村と連絡を密にしていく。

広域行政の議会報告

八郎潟町・井川町 衛生処理施設 組合

平成19年度における歳入・歳出予算の総額は、それぞれ6千815万6千円で、前年比2・8%の減額である。

歳入では、負担金が6千635万7千円で、全体の97・4%を占める。他に、使用料が1229万3千円・前年度繰越金が50万円・項目予算が6千円となっている。

歳出では、公債費が3千806万3千円と最も多く全体の55・8%を占めている。次に、一般管理費(職員2名分)が2千102万7千円で、30・9%・施設管理費が811万7千円で、11・9%・議会費及び予備費が94万9千円で1・4%の構成となっている。

本施設は、平成8年稼働以来11年を経過し、年々修理費がかさむ傾向にあ



る。処理能力も、一日あたり当初13klであったが、現在では9klと当初の70%の処理能力となっている。下水道の普及により、平成18年度で3・8klの稼働であったが、今年度は3・0klの処理計画となっている。現在手動により機械を操作しているがその操作がきわめて困難であり、そのコンピューター化には多額の費用が必要となる。

本施設の償還は、平成23年で終了するが、下水

道が普及しても、100%不用となる事はなく、新たな広域的な処理が、今後の大きな課題として浮上して来る。

(報告者・村井 剛)

八郎湖周辺清掃 事務組合の 運営状況

現在、男鹿市若美地区に建設中のごみ焼却施設及び、リサイクル施設の進捗状況ですが、当初、男鹿市・五城目町・八郎潟町・井川町・大潟村それぞれ自治体から出るごみの量からして、焼却施設を1日70t、リサイクル施設を20tで計画しておりましたが、その後の本地域の人口及びごみ処理量年度実績等により、計画規模がそれぞれ60t、15tに縮小となっております。

可燃ごみの処理方式としては、ストーカと呼ばれる可動式の火格子にごみを乗せ、乾燥↓燃焼↓後燃焼(おき火燃焼)と段階を踏んでごみを焼却



する方式を採用し、これらの両施設建設工事請負費については、指名競争入札の結果、28億1千400万円で落札しております。

現在、工事現場では、地下部分並びに一般基礎工事が全て終了しており、工事棟の1階部分の鉄筋加工組み立てを行うとともに管理棟及びストックヤード棟の基礎工事に着手しており、来年4月の本稼働に向けて順調に工事が進んでいる事を確認しております。

なお、組合では、来年1月上旬から施設の調整運転を予定しており、1月下旬からは組合市町村のごみを段階的に受け入れることとしております。

(報告者・畠山 菊夫)

大潟地区 衛生処理組合 諸報告要旨

大潟地区衛生処理組合の旧清掃センター解体撤去工事について申し上げます。

本工事につきましては、去る6月1日に指名競争入札を執行した結果、秋田市土崎港西三丁目2番23号、五洋・大森特定建設工事共同企業体、代表者、五洋建設株式会社、東北支店秋田営業所長藤田眞が、7千854万円で落札し、この8日に開催される同組合議会臨時会において契約案件を上程される報告を受けております。



なお、解体事業の工期は、11月末日予定されております。

また、解体後の組合跡地についてはありますが、3月22日に行われた組合定例会において、組合議会議員全員の総意として、管理者である大潟村長へ、所在地である大潟村で取得してもらうことを要望しており、この要望に対して、大潟村長からは、今後、村議会と協議したうえで、検討して行きたいとして、回答をいたしております。

なお、当該組合は八郎湖周辺清掃事務組合が設立されたことに伴い、解体工事後、土地を売却して平成19年度いっぱい解散することになります。

(報告者・小野 廣)



湖東地区行政 一部事務組合議会 概要報告

構成市長 潟上市昭和、
潟上市飯田川、井川町、
八郎潟町
本町議員
佐藤長（副議長）
齊藤徹郎、近藤美喜雄、
三戸留吉（消防団長）

予算（19年度）

歳入歳出総額、5億4千822万1千円（前年比△5・43%）
主な歳入

構成市町負担金、5億4千19万2千円（全体に対する割合、98・6%）
本町負担金 消防関係 1億4千83万1千円、衛生関係、324万6千円

計1億4千407万7千円、（前年比△850万7千円）
主な歳出
職員人件費

4億7千979万3千円（87・5%）
工事等、冷房設備整備事業 170万円

その他特別な工事等なし
職員 本署33人 昭和分

署16人 八郎潟分署16人
齋場一人
出勤状況等（18年）

	火災	救急	畜場使用	動物使用
潟上市昭和	1	226	108	14
潟上市飯田川	3	127	54	25
井川町	1	188	70	21
八郎潟町	0	225	93	25

◎17年度に八郎潟分署に救急用の高規格救急車が配備され、18年度には築11年を経過している齋場の火葬炉等の取り替え工事を実施しています。
◎15年3月23日から本町無火災継続中（満4年を経過中です）

（報告者・近藤美喜雄）



六月定例会 委員会報告

総務教育 常任委員会

本委員会に付託された一般会計補正予算歳出での主なものは、総務課関係では、県町村会負担金22万7千円、ホストコンピュータ保守委託料25万3千円の追加などであります。
教育課関係では、農村環境改善センターの電動式移動観覧席修繕と冷房ファンモーターの交換として700万円の追加、中学校費は、楽器のオーパーホール費用として30万円、小学校費は、危険遊具の撤去及び修繕料として38万9千円、幼稚園費では、電気引込盤のブレーカーとケーブルの腐食により、漏電の恐れがある指摘を受け、修繕料に20万9千円をそれぞれ追加しており、原案どおり可決しました。

なお、9月に開催されるあきたわか杉団体については、全国各地から本町に訪れる選手、役員、応援の皆さんが楽しく思い出深い大会になる様、当局の取り組み方について審議いたしました。

民生産業 常任委員会

「墓地公園基本計画の策定について」

委託料52万5千円が計上された、町営墓地の造成は、長年の町民の要望として、あるいはまた定住条件の一つとして、是非実現していただきたいとの委員会の意見でもある。基本計画を策定するにあたり、今の町の考え方は、候補地二カ所位を選定し、それぞれの候補地ごとに道路条件その他の必要条件を考慮し、

整備する場合の概算事業費を出し、造成環境、事業費等を比較検討しながら、9月を目途に最終選定の資料を策定したいとの意向であります。18年12月に関係者の陳情を本議会にて採択している関係もあり、順調に業務が進められることを期待し、予算を認定すべきものとなりました。

「米の生産調整、転作の実施状況について」

町長の行政報告で、難儀をしたが、転作目標面積の達成に見通しがついたとあった。しかし疑問が残る。まったく生産調整をしていない農家がみられるからである。委員会でも、19年度の方向を定める際、それぞれ、JAなり集荷業者がそれぞれの農家から生産調整方針に対する同意、不同意の確認を得ていて、この方針に従って転作の達成を目指しているのだと言う。この生産調整に対する考え方は今年度から始まっていて、この方針に

従わない農家を除いて、生産調整の達成を目指すのだとすればなにかがみあつていないように思われる。

町全体の転作目標面積350haから方針に従わない農家の分を除いて、従う農家の分だけ目標を達成しても、町全体としては未達成分が残る（保留分）この保留分が増えていけば、国全体の生産調整は根幹から崩壊してしまうのではないのか。保留分が発生すれば、次年度に国から町に対して不利益な取り扱いが発生する可能性があると言う。正直な米作農家がますます追い込まれることのないよう今後の動きを注視しなければならない。



議員研修会

平成十九年度第一回日の議員研修会が、去る六月二十六日農村環境改善センターで開催された。

最初に、『八郎湖水質浄化対策について』県生活環境文化部環境あきた創造課八郎湖環境対策室長・菅原徳蔵氏より講演をいただいた。

富栄養化に伴うアオコ発生の現状、各種発生源対策、湖内流動・浄化対策、流入負荷削減対策、その他考えられる対策や、八郎湖の長期ビジョンをも示した。

又、上水道のアオコ対策として、千葉県手賀沼、印旛沼の事例が紹介された。

上水道のアオコ対策が急務である八郎潟町にとって、きわめて関心を呼ぶものとなった。

次に、『分権時代に対応する町村議会の活性化について』県町村議会議長会事務局長・関正氏から講演をいただいた。

地方分権が唱えられて久しくなるが、その実態が見えない中で努力している小坂町の活性化事業や、北海道栗山町の議会改革の事例を示し、町づくりに向けた議会・議員活動の活性化を促した。

この度の研修会には、町議会議員はもとより、町当局関係者も多数参加し、今後の町づくりへの決意を新たにする意義あるものとなった。

請願・陳情

請願・陳情等の件名	請願・陳情者氏名	審査委員会	本会議結果
道路の補修と維持管理についての陳情書	八郎潟町字屋根下68番地の15 伊藤 鐵太郎	総務教育	不採択
「日豪EPA・FTA交渉に対する」陳情書	秋田県労農市民会議 議長 石田 寛	民生産業	採 択
商店街振興策の早期実現に向けての要望書	湖東3町商工会 会長 石井 裕	民生産業	取り下げ



議会のうごき

4月1日 消防団駆付訓練	30日 南秋田郡議会議長会協議会
6日 小・中学校入学式	6月5日・6日 6月定例会
9日 幼稚園入園式	13日 議会広報編集委員会
24日 国体実行委員会総会	17日 関東地区ふるさと会
27日 議会運営委員会 第1回臨時会	20日 一日市盆踊り実行委員会
5月2日 町村議会事務局長・担当者合同会議	21日 議会広報編集委員会
11日 町村議会議長会理事会・臨時総会	24日 消防団ポンプ操法訓練大会
16日 議会全員協議会 観光協会総会	26日 議員研修会
22日~23日 第32回町村議会議長・副議長研修会	27日 議会広報編集委員会
	7月1日 小野源一氏 旭日双光章受章祝賀会
28日 議会運営委員会 議会広報編集委員会	(19年春の叙勲)

編集後記

19年4月27日の臨時議会で、本町飲料水源のアオコ対策の最終案が示された。これは昨年の給水停止という重大事を踏まえ、検討に検討を重ねてきた結果、19年2月8日議会全員協議会に説明された、佐伯建設工業(株)の示した「アオコ処理方法」を採用したいと言う当局の説明について、議員から処理方法の信頼性、確実性がどの程度立証できるか、また、専門家の検討を踏まえ、再確認すべきなどの議会での議論を踏まえ、4月に、日大遠藤教授、埼玉大藤野助教授、秋田県立大近藤准教授と提案者の佐伯建設工業の技師などによる調査検討会が行われ、佐伯建設提案は水質改善に対する効果に疑問があり、2月8日説明された処理方法の見直しが必要、最もシンプルでな方法となった。それは、河口付近から竜馬橋の間に3カ所のオイルフェンス(特殊なもの)によって、遡上するアオコを回避するものです。

調査報告書によれば、この方法は「アオコは残存湖で発生し、馬場目川を遡上するものとし、河川内では発生しない」ことを前提として検討されている。そうであつて欲しいと思います。気にかかるところとういふ夏が近づいてきます。対策がうまく機能することを願わずにはいられない。同時に根本的な次の対策を真剣に詰める時期に来ていることを念頭におきながら...

(近藤)